



五島列島には今、51の教会がある



野首教会の悲しみ

（上五島・長崎巡礼⑬）

五島列島には今、いくつカトリック教会があるのだろうか。長崎巡礼センターに

よると五十一という。北から野崎島と小値賀島に各一つ、中通島に二十六、若松、奈留、

久賀島にそれぞれ三つ、福江島に十三、嵯峨ノ島に一つの合わせて五十一。実はこのほかにも十

余りの教会があったが、使用されず消滅し

たという。教会のある八つの島の総面積は六百四十四・一六平方*。周南市が六百五十六・〇九平方*なので、周南市よりも狭いところに六十余の教会があったのである。いくら交通の不便な時代とはいえ、近距離にもかかわらずたくさん

の教会が建てられたのは、自分たちの教会がほしいという意志の表れだったと思える。迫害下で集落ごとに結束して信仰を守り続けたことの証だろう。しかし、時とともに状況は変化し、教会数も信徒数も減少している。

その象徴ともいえるのが野崎島の野首教会である。野崎島は五島列島の北端にある小島で面積はわずか七・三六平方*。こんな離島の中の離島にも開拓移民として隠れキリシタンは住み着き、明治十五年に最初の教会が建てられた。当時は五島のどの教会も木造であったが、明治四十年代に入り教

会を改築する際にレンガ造りにすることが多くなり、明治四十一年に建て替えられた野首教会をはじめ、前回紹介した青砂ヶ浦教会、同じ中通島にある大曾教会、福見教会、下五島の堂崎教会、楠原教会、井持浦教会はいずれも威風堂々たるレンガ造りである。これらの教会は木造とは違い、堅牢で今もほぼ原形のままである。



無人島になった野崎島にある野首教会